

小別沢新聞

10

October 2021

#009

TAKE FREE

発行：札幌市農政部
(TEL 211-2406)
編集：NPOあおいとり
(TEL 664-5148)
デザイン：3KG
(TEL 300-3333)

郵送による定期購読を希望される方は、札幌市農政部までご連絡ください。

里山活性化推進事業と都市農業

今回は、札幌市農政部にて長年札幌の農業に携わってこられた三部英二さんに、これからの都市農業のあり方と小別沢との関わり方について話していただきました。

—— 三部さんが農業に興味を持ったのは？



最初は、札幌市農政部にて長年札幌の農業に携わってこられた三部英二さんに、これからの都市農業のあり方と小別沢との関わり方について話していただきました。最初のことからは、来るべき食料不安からでした。例えば、中国は30年前までは大豆自給国でしたが、現在は世界流通の6割近くを買い占め、さらに増加傾向は続いています。日本も大豆のほとんど(9割以上)を輸入しておりますので、食料問題は実はすぐ身近に迫ってきているという実状の中、九州の農民作家が日本の食料政策を悲観して「怖くて百姓をやめられない」という話を聞いたのが原点です。

—— 長年関わってきたからこそ感じる「農業」のあり方とは？

農業の本質は「農産物製造業ではない」と考えています。人間の遺伝子や健康、命を、より良いかたちで子供や後世に伝えていくというのが農業本来の役

割。未来を作り、未来へつなぐ農業は、農地だけではなく、地域、自然と景観、森と山と川の織りなす環境、文化、人、歴史遺産などが深く関係する。そしてそれらを取り巻くものを大事に受け継いでいくことが大切だと思います。「農業」という1つのコトだけではなく、「多様なコト」として関わりを持つていく、それがこれからの農業のあり方なのではないでしょうか。それを体現しようのが小別沢地域だと感じています。

—— 最近都市農業という言葉

を聞くことが増えてきました

最近よく耳にする6次化農業という言葉は、従来の作物生産(1次)という枠組みにとらわれることなく、加工商品づくり(2次)や、体験・観光サービスの提供(3次)など、地域のあらゆる資源を活用した経営を意味しています。資源豊かな小別沢地区では様々な人たちが連携していくことで、それが可能となります。さらに、小別沢は都市との距離が近いことから「都市農業」に向いている土地



であるとも考えられます。都市農業とは、身近な農業であり、顧客と直接繋がることができるとは、顧客(都市住民)とは「商品を生る先」にとどまらず「一緒に育てる仲間」という関係が可能なのです。

また、山と里が近いことで、エンドファイト(内生菌)などが豊かな土壌を作り、多様さにあふれる土が見られます。土も人も農業のやり方も多様となりうる可能性を秘めているように感じています。生態系保全を大切にしたい農業は採種も大切ですので、この地にあった系統をイチから育てていくという取り組みもあるのではないのでしょうか。

まず大切にされた方が良いと思うのは、繋がる顧客について、連帯感を持つてやっていける人かどうかを見極めること。闇雲に仲間に入れてしまうことはよくないかもしれません。そして、個人的な妄想ですが、都市住民の生活自給率を向上させたいという想いがあります。生活自給率とは、自分の身の回りの衣食住をどのくらい賄えるかの指標で、いわば「生きるチカラ」のこと。小別沢には生活自給率を高める資源があります。農や食に限らず総合的な生きる糧を学ぶ場を今後作っていかたいいなと思っています。たとえば、建物も食器も食材も、エネルギーでさえも全て小別沢産というレストランを立ち上げるいうのも面白い。

小別沢には、そうした守るべきものの、新たなものを作り出す素材がたくさんあります。初めて小別沢を訪れた時に見た、夕焼けに染まる小別沢に心から感動したことを今でも覚えています。小別沢ならではの四季折々の景色を子孫に残していきたいです。

三部英二さんぶ・えいじ



1979年に札幌市入庁、農業センターにて野菜の品種・技術改良と農業指導を担当。その他、サツポロさらんなどの整備や地産地消の推進、伝統野菜の保全などに努める。現在は植物工場やバイオガス発電事業に携わる。

小別沢のあのヒト

このヒト

佐藤勝馬さん

——農業を始められたタイミングは？

農業は親父の手伝いから始めたんだけど、わたしは結婚したタイミングで親父は街でアパート経営を始めたから、農業を引き継ぐことに。最初は野菜作りの参考にするために伊達や洞爺、壮瞥の方まで何回も視察に行ったもんだよ。色々試したけど苦労した。わたしと家内と馬



とでやっていった。当時作っていたのはトマト、キュウリ、ナスとかの野菜。オート三輪の後ろに積んで小別沢トンネルを超えて市場に持って行ってたの。

——市場はどちらまで？

20歳くらいまでは円山市場。その次は六条市場。持って行った野菜を八百屋さんで売るんだね。活気のある市場で、たくさん八百屋さんが仕入れにきていた。小別沢からオート三輪で30分くらい。市場は今と違って、並べて売ることまで全部を自分でやらないといけなかった。場所代を払って売り場を使わせてもらっていたんだ。

——六条市場に卸していた時は



どんな1日でしたか？

寝る時間なくて大変さ、よく聞いてくれたわ(笑)！

朝2時ころ起きて、前の晩に用意した荷物を持って市場に行くんだ。市場のスタート時間は決まってなくて、真夜中でも着いた人から始める。6時くらいまでは売る。それから帰って、売上のお金の計算して金庫にしまふ。やっと朝ご飯にありついて仕事にかかると。収穫ばかりじゃなくて、草取りや消毒もある。作業はいくらでもある。晩までずっと畑で過ごして、採った野菜を売れるように整理するから、深夜まで働くことはよくあった。わたしは起きるのが苦手、家内は布団の中に入ると寝すぎるから椅子で寝てたよ。中央卸売市場が新しく出来

て、野菜の出荷先はそっちに変わった。手数料はかかるけど、野菜を運ぶだけだからだいぶ楽になったさ。

——小別沢といえば小松菜と聞きますが？

小別沢では結構早い段階から作り始めて、20年くらいは経つんじゃないかな。その前は農協からの依頼で春菊を作ったこともあった。小松菜は年に4回出荷する。別の農家は5回転というところもあるんじゃないかな。出荷した小松菜は小学校の給食に使われてるんだよ。

——今後の小別沢についてどう思われますか？

ここ数年でうちの井戸がすっかり枯れちゃって。ハウスは水がなかったらだめだから、他から運んでこないといけなくなつた。いったい何が原因なのかなあ。水道の水を畑に使ったらどうなだけお金かかるか！だから今年の夏は他の湧き水から毎日何回も車で運んだけど、大変だった。小別沢を取り巻く環境が変わってきてることなんだろうな。

六条市場に通っていた頃は、畑を他人に貸すなんてことは考えられなかった。今後、畑の使い方や小別沢に関わる人たちは時代の流れで変わって行くのかなと思う。それに合わせて考えていかないと。

里山事業のスケジュール

| | | | | | | | | | | | |
|-----------------|---|-----|---------|----------------|------------------|--------------------|----------------|---------------|--------------|------|---|
| 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
| 小別沢新聞 | | 第7号 | | 第8号 | | 第9号 (この号) | | 第10号 | | 第11号 | |
| 小別茶話会 | | | | -第3回 8月13日金 | | 延期 → 第3回 11月9日火 | | 第4回 12月7日火 | | 第5回 | |
| 森林整備 森林経営管理法 | | | 市と山主の契約 | | 林業者の 公募に向けた準備 | | 林業者の公募 (審査) | | 市と林業者の 契約 | | |



むかしと いまの 小別沢

#3

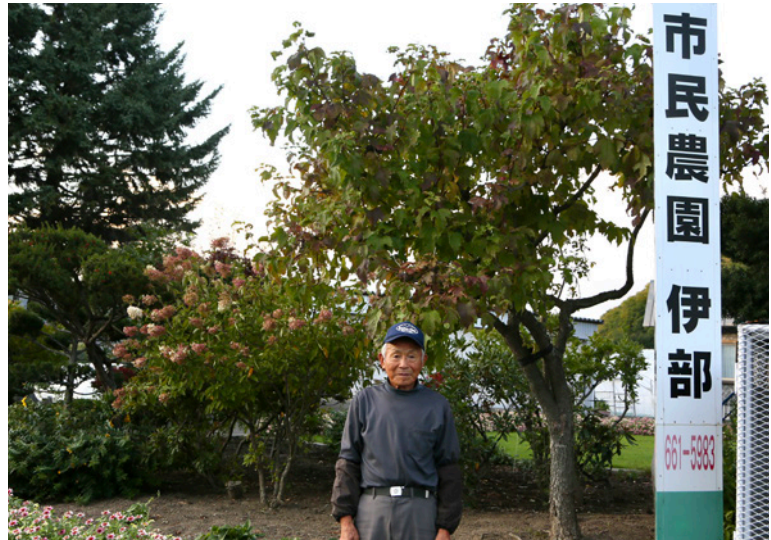
その昔、小別沢の農家にとって馬は生活には欠かせない存在でした。今では馬耕をする馬は小別沢には

いなくなってしまうましたが、その名残りとして小別沢会館の前に馬頭観世音が残っています。

鎌田愛 かまだ・あい
札幌に生まれ育ち、現在は養護教諭として小学校に勤め、みんなが親しめるイラストを用いた保健だよりを作成するなど、保健室で日々奮闘中。夢は、いつか家族のコミックエッセイを出版すること。

伊部さんに聞く 市民農園

『今年の夏は今までで一番苦労したよ』そう語るのは、小別沢で市民農園を運営する「市民農園伊部」の伊部義幸さん。30年ほど前、営農の一環として有志と一緒に貸し農園を企画したものの、利用希望者が集まらず断念。それから数年後、今から23年前に札幌市農政部から提案を受けて80区画からスタートしたといいます。今では160区画余りに広がり、予約開始早々に埋まってしまいう大人気の市民農園です。



市民農園の管理で大変なのは水の提供。今年には特にコロナ情勢により屋外活動への関心が高まったせいも、農園は例年以上に賑やかな場所に。そんな中、あの猛暑とカラカラ天気。利用

者が頻繁に水まきをするので、用意した3つの水タンクはすぐに空になり、多い時は1日3回も補給したそうです。ポンプは手動操作なので、常に掛かりつきり。自分の仕事と重なって大変な時には娘さんの手も借りるなどし、主催者として利用者に不便をかけないよう、常に気を配っていることがわかりました。利用者の中には20年近く借り続けている人も多くいるそうです。都心から近距離で野菜作りができる好立地や、伊部さんの丁寧な対応がリピーターの心をつかんでいるのでしょう。

市からのお知らせ

新型コロナウイルスの影響により延期していた小別茶話会を開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

第3回 小別茶話会 開催のお知らせ

日時: 11月9日(火) 16:00-17:30
場所: 小別沢会館(札幌市西区小別沢49)
内容: 事例紹介
「里山におけるもう一つの農業」
発表者: 三部英二など

左図の森林整備範囲について、林業者の公募手続きが始まりました。林業者の企画提案書を審査した後、11月末頃に市と林業者が契約する見込みです。

札幌市農政部農政課 松里・石堂
☎211,2406

